



KIFA Plaza

鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第76号

2012年(平成24年)11月22日
 発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
 〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1
 TEL 047-445-1141 (内550)
 FAX 047-441-9400
<http://www.kifa.gr.jp>

ブータン王国を知る交流会

ヒマラヤの秘境のような小さな仏教国・ブータン王国がいま、大きな「国際国家」になろうとしています。国づくりの哲学としての指標「国民総幸福量」の考え方は、世界的にも注目されています。3人のブータン出身者を招き、伝統的な仏教文化と社会、幸せの拠りどころについてお話を聞きました。

文化と幸せの源流・拠りどころ 3人のゲストを招き話を聞く

10月28日(日)まなびいプラザでの交流会のゲストスピーカーは、麗澤大学留学生のChoten Dorji (チョテン・ドルジ)さん、横浜国立大学に留学し日本で勤務しているKesang Wangchuk (ケサン・ワンチュク)さんと、同大学留学中で妻のLeki Choden (レキ・チョデン)さん。3人はブータンの民族衣装で登場、世界の注目を集めているブータン王国について話しました。

◎教育費、医療費は無料

ケサン・ワンチュクさんからは、ブータン王国の地理、面積、人口、公用語、首都や主な都市、政治体制など基本的な内容に加え、GNH (Gross National Happiness / 国民総幸福量) に至った経緯と現状について説明がありました。健康、心の持ち方は環境の質に関わるとして、人と自然の共存を大切にしていること。家族や社会の絆を大切に、老いた人も若い人も敬愛し合いながら生活している。国民の経済的自立のため教育費、医療費は無料となっていることなどが話されました。

◎仏教が生活のアイデンティティー

続いて僧侶であるチョテン・ドルジさんから、ブータン人の共通価値観となっている仏教が家庭生活、職場、学校とどのように結びついているのか、また幸福感や満足感のよりどころについてのお話をうかがいました。仏教が国民の日常生活の全般、アイデンティティーにも深く関わっていること。食生活では無駄な殺生はしない視点から、鳥よりも牛を食べる。なぜなら一つのいのちで大勢の人が食を満たすことができるから。また、切花を扱う花屋さんはない。仏教のThe Triple Gem (三宝)の思想が根底となっていることなど話されました。

交流ティータイムではお茶を飲みながら、ゲストを囲んで写真を撮ったり、小さなゲストのイーজনちゃんと遊んだり、和やかな交流のひとつを過ごしました。



右から、チョテン・ドルジさん、ケサン・ワンチュクさん、レキ・チョデンさん。交流の様々とワンチュクさん夫妻の娘さんイーゾン・ツォキ・ワンチュクちゃん。

◎家長は能力によって決まる

この後、レキ・チョデンさんによる女性の立場から、ブータンにおける家族や教育、食べ物、お祭りなどが話されました。大家族が中心で、週末や休日の過ごし方など生活全般においても仏教と祈りが深く関わっていること、家族でも個々の名字がありFamily Nameがない。夫婦では個人の能力によって家長が決まる。

ブータンの女性には政治、社会、経済、法的な差別はなく、妊婦と子どもは政府に保護されている。但し、政治への女性の参画は少なく、政治の重大決定では女性の意見が反映されていない現状があるなど、女性ならではのお話を伺うことができました。

交流部会主催による今回のイベントへの関心は高く、会場には定員の50人を越す市民が集まりました。講演は主に英語で行われ、ボランティア通訳の平田真貴子さん、門川孝子さんによる通訳を交えての交流カフェとなりました。

手巻き寿司で結ぶ友情の絆

トライデント高校生らと鎌ヶ谷高校生が交流の一日

鎌ヶ谷市を訪問中の姉妹都市ワカタネのトライデント高校生一行13人（引率教員2人、男子学生7人、女子学生4人）が10月1日（月）、交換留学などで交流を続けている鎌ヶ谷高校を訪問。授業体験や部活動を楽しみながら交流の一日を過ごしました。今回のトライデント高校生らの訪問は昨年、両国で起きた震災の影響で中止となっていた青少年による、姉妹都市交流の再開の第一歩になるものでした。

◎両国の震災で途絶えていた交流が再開

鎌ヶ谷高校では学校紹介ビデオを鑑賞後、3年生の家庭科のフードデザインの調理授業です。エプロンと三角巾の身支度を鎌高生に手伝ってもらって厨房教室へ。地域の協力者・清治房子さんによる、バラの花の飾り寿司と、厚焼き玉子のデモンストレーション。手元が大型テレビに映し出されリアルに実感できます。野沢菜と薄焼き玉子と紅ショウガ入りの飾り寿司が巻かれました。

◎グループごと調理台を囲む

いよいよ調理実習。英語のレシピを片手に日本語と英語、ジェスチャーでコミュニケーションしながら手巻き寿司、照り焼きチキン、ポテトサラダ、トライフル作り。お互いに交わす言葉も初めは遠慮がち、それもすぐに打ち解け、調理室は熱気と笑顔がいっぱい。寿司めしを団扇で冷ましなが、笑顔で日本語の勉強の仕方や、各々の学校のことや趣味の話で盛り上がるグループもあ



手巻き寿司を巻いて会食交歓会

ります。

トライデント高校生は、ポテトサラダを飾るきゅうりのジャバラ切りにも挑戦。料理ができあがると会食室へ移動し、全員でのテーブルセッティングです。

◎調理した料理を囲んで会食タイム

手巻き寿司の巻き方を教わりながらの試食会。納豆はあまり好まれなかった感じ。トライフルはあんこ、バナナ、ホイップクリーム、チョコレートソースを各自好みでアレンジ。勧められてあんこを恐るおそる試してみ、気に入った様子で、あんこのトライフルをおかわりしている生徒もいます。

昼食後は1年生の書道の授業に参加して篆刻を体験するグループや、空手の演技、部活を見学したり、盛りだくさんの充実した交流の一日となりました。

（写真は共同調理授業の様相）



ホストファミリー 体験交流記

家族交流は楽しい



ホストファミリー駒崎さんご一家

僕が中学3年生のときに、初めて留学生受け入れを経験して、英語で物事を伝える難しさと、言いたいことが伝わったときの喜びを知りました。

そんな経験の翌年にKIFAの青少年ロングステイ派遣で、初めてワカタネに約1カ月の留学を経験しました。わからない言葉の中で過ごす不安をおぼえながらも、とても楽しくて貴重な経験をすることができました。

そして今回、僕はすぐに家族と相談して受け入れることにしました。休日には家族で秋葉原に行きました。僕は交流サポーターとして、平日、トライデント高校の生徒さんたちと一緒に、ディズニーランドや東京見物のお手伝いをさせていただきました。どれも貴重で楽しい経験ばかりでした。

言葉の壁を越えてコミュニケーションができることが、ホームステイの醍醐味だと思っています。とてもいい経験になるので、皆さんも是非一度トライしてみてもいいのではないでしょうか。

（鎌ヶ谷高校3年 駒崎達也）



部屋を一步入るとそこは英語の世界

2012年度・第1回
英会話サロン

英語大好きさんたちの楽しみ「KIFA英会話サロン」(研修部会主催)——2012年度の第1回サロンが9月9日(日)、まなびいプラザで開かれました。ゲストは、アメリカ人で市内中学校教師のKathryn Bohan(キャサリン・ポアン)さん。主婦で元英語講師を務め、今は小学生と幼児のお母さんEllie Homma(エリー本間)さん。それに、カナダ人で予備校講師のJason Mercier(ジェイソン・メシアー)さんの3人。参加者はゲストを除き外国人2人を含め30人でした。



◎ゲスト・スピーカーの基調スピーチ

・Ms.Kathryn Bohan「マイ パスポート」(写真上)

学校が休みのときはアメリカへ帰省したり、日本や海外へ旅行したりします。パスポートには、さまざまな国のスタンプが増えていくのが楽しみです。国によってパスポートのチェックが厳しかったり、そうでなかったりと、税関の対応が違うのにびっくりさせられます。



・Ms.Ellie Homma「マイ ドリーム」(写真中)

現在の夢は、バイリンガルに育った二人の子どもの健やかな成長を願っていることです。

・Mr.Jason Mercier「カナダと日本の違い」(写真下)

カナダではいろんな人種が暮らしていて、自分のルーツをたどってみても、イギリス人やフランス人、イタリア人などの血が流れていて、文化的にも色々な色彩が入り混じっていて面白いです。



日本へ来てみると顔は同じ、名前は漢字、言葉や文化も同じなど、まるで様子が違うのでびっくりしました。

第2部では、話題が広範囲に及ぶ場面もあり、どのテーブルも会話が途切れることなく、英会話を楽しむ参加者で賑やかでした。

第2回サロンは11月18日(日)に終了しました

9月のサロンに続き、第2回も3人のゲストを迎えて下記のトピックスを中心に会話が弾みました。

- ・ Mr. Chris Ayesu (Ghana)、The experience that changed my life most
- ・ Ms. Rachel Byrom (USA)、My first experiences in Japan.
- ・ Mr. Jason Mercier (Canada)、The cultural shocks that I experienced living in Japan



トラに変身したクリス先生と、大喜びの子どもたち

スマイリーキッズ ハロウィンまつりを楽しむ

Happy Halloween! ——10月27日(土)の授業には、子どもたちが Halloween の仮装をして、教室に集まってきました。すでに会場は Halloween の飾りつけが始まっています。まずは、保護者の協力でフェイスペイント。パンプキン、クモ、お化け、コウモリ、クロネコなどをリクエストして、フェイスペイントをしてもらいます。そこへクリス先生がトラに変身して登場。子どもたちは大喜びです。

保護者が参観するなかで、授業は Halloween にまつわる言葉とアルファベットの勉強です。たくさん

アルファベットが並んでいる中から、spider、ghost、witch、pumpkin、batなどの単語を探していきます。似たような、でも違うアルファベットがたくさんあります。その中から単語を探すのは大変です。授業が進むと要領を得て早く探せるようになっていきます。

早く答えを見つけると、クリス先生が Halloween のシールをプレゼント。クリス先生が単語を発音するたびに、子どもたちが競って単語を探します。

続いて Jack-o'-Lantern の J の文字をなぞったり、ぬりえでアルファベットを学びます。

授業の最後は、一人ずつドアをノックして、「Trick or treat?」と言って、お菓子をもらい大喜びでした。「Happy Halloween!」で授業を終えました。

KIFA 2012年度 交流バスツアー

雨の茨城路～水戸・偕楽園好文亭、魚市場、鹿島神宮

2012年度の交流部会主催の茨城方面「交流バスツアー」は、雨に魅入られた一日になりました。今年の参加者は6人の外国人を含め40人、バス1台という小規模ツアーになりました。過去7年間続いた90人、バス2台に比べ少し寂しさもありましたが、雨の中、市役所前を7時30分に水戸に向けて出発しました。

最初の立ち寄り見学は徳川副将軍・黄門様の醸造元で今では、梅酒と酒の資料館「別春館」。6000リットルの原酒が入った熟成タンクが、60本以上並ぶ梅酒蔵では、梅の仕込みから熟成までのお話を伺いました(写真左)。

雨が激しさをましてきたようです。次の立ち寄り所は、日本三公園の一つ偕楽園、園内にある庭園建築「好文亭」です。邸内を一回りする。華麗な花の襖絵の奥座敷が幾つもあり、回廊から花の樹木の庭園と梅林など素晴らしい眺望が、雨の中に広がっていました。

お楽しみの昼食は「大洗イエローボート・ドライブイン」で海鮮料理(写真中)。後はお魚ショッピング。

雨は止みそうもありません。鹿島神宮は「武」の神と



雨の偕楽園・好文亭と水戸光圀公像

して、古くから隆盛を誇った名社で、参道の両脇の巨木がすごい。有名な大鳥居は東日本大震災で倒壊して跡形もない(再建中)。紅い楼門から本殿まで行って引き返す人も居ましたが、最奥の一つである「要石」まで行ってきた人もかなり居たようです(写真右)。

雨で眺望も期待できないことから、鹿島港を一望する展望台(52m)のある港公園はパスして、潮来インナーから東関道、16号線を経て市役所に到着したのは6時過ぎでした。



お知らせ

～詳細は市の広報、KIFAのHPなどご覧ください～

◆KIFAパーティ・入場無料

日時 2012年12月2日(日) 13:30～15:30
会場 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター
内容 歌声喫茶、ジャズ、ウクレレ、展示など

◆日本語講師ボランティア養成講座Ⅱ

日時 12月1日(土) 10:00～12:00(全10回)
会場 鎌ヶ谷市中央公民館

◆外国文化に親しむサロン

日時 2013年1月20日(日) 13:20～15:40
会場 まなびいプラザ

◆世界を知る会・入場無料

日時 2月3日(日) 14:00～
会場 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター
内容 二胡、琵琶など中国の民族楽器演奏

◆世界の家庭料理講習会

日時 2月17日(日) 10:00～
会場 南部公民館調理室・ロシア料理



にほん語講座 ―夏祭り特別学習会

「夏祭り特別学習会」が行われました(写真)。会場には太鼓や提灯、兜、旗差し物など祭り道具が整えられました。試し打ちの太鼓の音が「ドドンがドン」と響きます。浴衣や甚平に着替えた外国人の受講生が集合しました。

まずは、習ってきた日本語による1分間のスピーチです。出身国や趣味、好きな食べ物など、上手に話し、全員頷いたり、嘩したてたり賑やかです。

続いて盆踊りです。輪になって振りの練習、本番ではリズム感よく受講生が練習した大太鼓、小太鼓の打ち手です。「東京音頭」と「炭坑節」を踊りました。

編集後記

国際交流の在り方が地域での多文化共生に変わろうとしています。文科省が国際社会で活躍できる人材育成へ、青少年の海外留学への環境づくりを積極的に進めるという。内向き傾向に留まらず、広く外国人と交流し異文化を知り、高い語学力と交渉力を備えた、次世代の人材育成にも目を向ける必要があるのではないのでしょうか。(M・H)